

講義年月日：2007年6月11日

講演者：長谷川 豊祐 氏（鶴見大学図書館）

テーマ：「高等教育サービスと図書館サービスの融合に向けて：パブリックサービス担当者として」

講義内容

1．複雑化する高等教育サービスにおける課題

少子化による大学全入時代を迎えて、学生の質の多様化により教育支援も従来とは違った対応が求められている。高等教育サービスとはアカデミックスキルの習得やキャリア形成などの学生支援をいう。社会状況の変化もあり、昔はモラトリアム期間としての大学でもよかったが、即戦力が求められる時代になり、就職についても早い時点からキャリア支援を行う必要が生じてきた。実際に学生が図書館と情報センターで過ごす時間はわずかであり、その時間で図書館が提供できるサービスは何かを考える必要がある。

2．図書館業務電算化における課題構造

電算化の進展、業務システムのパッケージ化により業務の効率化とサービスの高度化が実現した。一方、弊害としては図書館側にシステム開発の関わりが薄くなり、システム機能を向上させようという意欲の後退がみられる。結果としてシステムは未完成なままになっている。インターネットの普及にともなう情報コミュニケーション技術の発展に、図書館サービスがついていけない状況に陥っている。

3．融合を検討する以前に解明すべき課題

1970年からの私立大学への経常費補助の開始、受験生の増加・大学数が3割増える中で、図書館の資料数も増加・充実してきた。その後少子化による経営環境の悪化やインターネットの普及などで図書資料費の低下と学生の図書館利用者数が低迷している。

4．高等教育サービスにおける融合の方向と条件

大学で提供しているサービスを有機的に融合し、効率的なサービスを提供するために大学各部署の職務内容・責任を明確にすることによって、適正な人員配置が可能になる。図書館と情報センターの融合だけに限定されないリテラシー教育とかデジタルコンテンツなどのサービスが提供できる。

5．中小規模大学の事例紹介

1) 大学院生の協力による学生の生活支援と学習支援のための学習アドバイザー制度

- 2) 就職本を集めたキャリア支援コーナーの設置
 - 3) 新入生全員への図書館ガイダンスの実施
 - 4) 館報に学外の有識者に執筆を依頼するなどの地域連携
 - 5) 「学びのツボ 学科別推薦本」などの企画展の実施
6. 人生における選択肢の一つとして大学院の勧め
- スキルアップのため、また視野を広げ人脈を拓げるために大学院に行こう。費用もそれほど高くなく、生活の中で何かを一つあきらめれば学位はとれる。

以上